



トップスニュース

Vol.94

2017年1月25日

加盟
団体



サンフレッチェ広島



JTサンダース



ワクナガレオリック



広島メイプルレッズ



広島ガス
バドミントン部



NTT西日本広島
ソフトテニスクラブ



中国電力
陸上競技部



コカ・コーラウエスト
レッドスパークス



広島東洋カープ

トップス広島 事務局

〒733-0036

広島市西区観音新町4-10-2

ターミナルビル1F

TEL:082-233-3233

FAX:082-233-3251

URL:www.tops-h.net/

このQRコードから
公式Webサイトへ
アクセスできます。



ありがとう！小池選手、桜井選手

今季で引退する小池温子選手と桜井みどり選手が、見事な活躍をファンにみせてくれ、有終の美を飾った。年が明けた1月15日(日)に中区スポーツセンターにて、ヨネックス杯バドミントンひろしまオープン2017が行われた。一般の女子ダブルスに小池・濱北ももペア、桜井・亀田楓ペアが参加した。どちらのペアも予選リーグを見事1位通過し、桜井・亀田ペアが優勝をおさめ、小池・濱北ペアが準優勝という結果で、小池選手、桜井選手は有終の美を飾った。小池選手、桜井選手、長い間、お疲れ様でした。2人の熱い思いを胸に、今後の広島ガスバドミントン部の活躍が期待される！



引退する小池選手・桜井選手



圧巻のプレーで、前人未到の7連覇達成！

12月16日(金)～18日(日)の3日間、愛知県豊田市にあるスカイホール豊田で日本リーグが開催された。

大会初日、大鹿印刷戦では、船水雄太選手・長江光一選手ペアがダブルス1を4-2で制すと、シングルの原佑輝選手が4-0で快勝。ダブルス2では、村上雄人選手・丸中大明選手ペアが4-3で競り勝つ。続く厚木市役所戦では、ダブルス1の村上選手・長江選手ペアが4-0で圧勝。シングルの丸中選手が4-2、ダブルス2の水澤悠太選手・岩崎圭選手ペアが4-3と着実に勝利を重ねていく。

大会2日目、ワタキューセイモア戦では、ダブルス1の水澤選手・丸中選手ペア、シングルの長江選手ともに勝利を収めるが、ダブルス2の船水選手・原選手ペアが相手に粘られ3-4と惜敗。チームとしては2-1で勝利した。続くヨネックス戦では、ダブルス1の丸中選手・長江選手ペア、シングルの船水選手、ダブルス2の水澤選手・村上選手ペア全てが快勝。

2日目最終戦となる東邦ガス戦は、ダブルス1、シングルス、ダブルス2全てのゲームで相手を完封し、全勝のまま最終日に駒を進めた。

迎えた最終日。宇部興産戦は、ダブルス1の村上選手・原選手ペアが4-0、シングルの長江選手が4-1、ダブルス2の船水選手・岩崎選手ペアが4-0で快勝。

そして最終戦、京都市役所戦では、ダブルス1の水澤選手・原選手ペアが3-4で惜敗したが、シングルの船水選手が4-1、ダブルス2の丸中選手・長江選手ペアが4-0で快勝して試合終了。

見事、チームが昨年達成した6連覇を更新し、7連覇を達成した。

今回、林選手の欠場というアクシデントはあったもののそれを逆に力に変え、全試合でオーダーを変え、という取り組みをしながらもつかんだ7連覇。堀晃大選手兼監督は、「林の欠場や日本代表組の疲労蓄積など厳しい環境となったが、「代表組以外の選手で圧倒するぞ!」と、檄を飛ばした。日本リーグ8連覇はもちろん、天皇賜杯をはじめとした各大会の制覇をめざして頑張りたい。」と、語った。

今後の大会でも、チームがより活躍することに期待が膨らむ！

2017 年度新入団選手発表

10月29日に行われたドラフトで指名された6人の新入団選手が入団会見を行った。報道陣や球団関係者だけでなく400人のファンクラブ会員が集まった。ドラフト1位の加藤拓也投手（慶応義塾大）は、「やっとプロに入るという実感がわいてきた。キャンプまでに全力で投げられるよう準備している。自信を持っている直球を磨き、よりいい球をプロでもなげたい。そしてリーグ連覇、日本一に貢献したい」とコメントした。2位の高校ビッグ4と呼ばれた高橋昂也投手（花咲育英高）は「こだわりがあるのはストレート、変化球をうまく使いながら的をしぼらせない投球ができればいい」と語った。その他にも、3位床田寛樹投手ほか3選手が入団した。1月7日（土）に入寮し、8日（日）から自主トレをスタートさせ、初のマツダスタジアムで練習を行ったときには、「球場がきれい」「ここでプレーすることを目指して、頑張っていきたい」とコメント。16日（月）からは合同自主トレを行い、プロ野球選手としての生活が始まった。昨年、黒田博樹投手が引退したその穴をうめてもらいたい。ポスト黒田になれるのか、かかる期待は大きい。そしてリーグ連覇、昨年届かなかった日本一へ、大きく貢献してほしい。カープを担う即戦力になってくれることを願っている。



新入団選手と緒方監督

新顔6人 貢献の誓い

2年ぶりJ1制覇を目指すサンフレッチェ広島は1月14日（土）、広島市内のホテルで新加入選手の会見を開き、元日本代表FW工藤壮人ら移籍4人、新人2人が参加した。

注目される工藤は、「このチームの目標は優勝しかない」と力強く語った。工藤と並び攻撃陣の顔として期待されるMFフェリペ・シウバ。多彩なパス、ドリブルに定評があるブラジル人は「タイトルを取ります」と日本語で挨拶した。この他にも前チームでのレギュラーの座を捨て移籍してきた、GK中林とMF稲垣や18歳コンビのイヨハと松本にも大きな期待がかかる。

また、翌15日（日）には中区シャレオ中央広場でシーズン・イン・イベント2017が開かれ、多くのサポーターが集まった。青山敏弘主将、千葉和彦選手会長をはじめ多くの選手が4度目のJ1優勝へ力強く抱負を語った。

新加入の工藤選手は「このチームで優勝するために来た」と語った。

織田秀和社長は「今年は、タイトルを取りたいと森保監督とも話した。選手たちもそういう決意に満ち溢れていると思う。総勢28人の力で、広島にシャレレを持てきたい」とあいさつをした。



元日本代表 工藤壮人選手（右から2人目）ら新加入選手たち

12/26~1/15 トップス広島 試合結果

JTサンダーズ

▽V・レギュラーラウンド

1/7 JTサンダーズ 3-2 サントリーサンバーズ ○

1/8 JTサンダーズ 2-3 FC東京 ●

広島ガス バドミントン部

優勝 桜井・亀田ペア

準優勝 小池・濱北ペア

《※広島で行われた試合のみを掲載しています。》

背番号「8」の引退

背番号「8」を背負い、チームの中心選手として長年にわたりプレーしてきた小野真由美選手が昨シーズンをもって引退することとなった。

富山県に生まれ小学時代から始めたホッケーに慣れ親しみ、体格を活かしたストロークを武器にめきめきと頭角を現して、中学・高校で全国優勝。その後は強豪の天理大学に進み、チームの主将としてリーグ優勝にも貢献した。大学卒業時には更なる高みを目指し、当時は決して強くなかった CCWRS への入部を決意した。

小野選手とともに CCWRS ホッケー部も成長し、近年では常に優勝を争う強豪チームへと進化を遂げた。代表活動においても、数多くの国際大会へ出場し、その功績が刻まれた。

昨年 10 月、岩手県で開催された第 71 回国民体育大会では、ベテランらしくチームを牽引し、見事 4 年連続 4 回目の広島県チーム優勝に貢献してくれたことは、まだ記憶に新しい。

小野選手は「私に関わってくださった多くの方々に感謝申し上げます。1 勝もできなかったチームは皆さまの熱いご声援のおかげで、日本一を目指せるチームへと成長できました。夢であった五輪を 2 度も経験できたのは、皆さまの素晴らしい支えなしでは叶えられない夢でした」と感謝の気持ちを言葉にした。



引退する小野真由美選手

強豪相手に善戦も、僅差で敗れる

12 月 21 日（水）から 25 日（日）に、エスフォルタアリーナ八王子・駒沢体育館において第 68 回 日本ハンドボール選手権大会が開催された。

2004 年以来の優勝を狙うメイプルレッズは第 4 シードで出場し 2 回戦を順当に勝ち上がり、準々決勝に進出した。準々決勝の相手はインカレで優勝している強豪・大阪体育大学。

前半はなかなかチャンスが掴めないものの、18 番 李美京選手のフィジカルを生かした個人技や 9 番 門谷舞選手の速攻で応戦したが、相手の勢いのまま 11 対 14 でリードされる展開となった。

後半は 7 番 笠木美希選手のシュートを始めとし、メイプルレッズの攻撃が次々と決まり同点に追いついた。

しかし後半 18 分にメイプルレッズが痛恨の退場者を出し、点差を徐々に広げられ、20-23 で惜敗した。

1 月からはレギュラーシーズンが再開されるので、この悔しさを胸に優勝目指して活躍に期待したい。

僅差で敗れるも、実りある実業団駅伝

1 月 1 日（祝）群馬県前橋市にて、「第 61 回全日本実業団駅伝大会」が開催され、中国電力陸上競技部の選手が出場した。

1 区の山崎亮平選手は先頭集団でレースを進め、先頭とわずか 6 秒差の 8 位という順調なスタートを切った。2 区は、広島の強豪・世羅高校出身のポール・カマイシ選手。しかし本来の走りができず、19 位まで順位を落としてしまう。3 区の岡本直己選手はベテランらしい走り、2 つ順位を上げると、4 区の米澤類選手も初めての最長区間ながら 4 つ順位を上げた。5 区の清谷匠選手も入賞目指し前を追いかけ 9 位まで順位を上げると、6 区藤川拓也選手は順位を下げるものの、入賞ラインの 8 位とわずか 7 秒差とした。7 区松井智靖選手は初のニューイヤー駅伝でしたが積極的な走り、8 位集団を引っ張った。

ラストスパートで離され、8 位入賞まで 5 秒差の 9 位だったが、最後まで粘りの走りをした。

入賞まであと一歩及ばなかったが、来年は上位争いに期待したい！



3 区を激走する岡本直己選手

地元・広島での初戦！フルセットの末、見事勝利！

V・プレミアリーグ、新年初の地元広島での初戦。サントリーサンバーズを相手に迎え、1月7日(土)に県立総合体育館で行われた。

第1セットは終盤まで、拮抗した展開が続くも吉岡光大選手の活躍により、25-23で先取する。続く第2セットは取り返されるも、第3セットはルブリッチ選手・越川優選手を中心に得点を重ね、2-1と勝ち越す。一気に決めたい第4セットだったが、出だしから相手に先行され、18-25で奪われてしまう。

勝負の最終セットは一進一退の攻防から、箕本翔昂選手のブロックなどで連続得点を挙げ、試合はジュースに突入。その後同点の場面から越川選手の連続得点が決まり、25-23フルセットに及ぶ激闘を制し、今シーズン初の連勝を飾る。

続く8日(日)も熱戦が繰り広げられる。3連勝がかかった、F0東京戦。序盤から連続失点を喫すると、相手オポジットのサーブに苦しめられ15-25で第1セットを落とす。続く第2セットは町野仁志選手や越川選手の活躍で、取り返す。その後、互いに1セットずつ取り合い、2日連続のフルセットに突入する。序盤は先行されるが、吉岡選手の活躍で逆転に成功。しかしその後、同点に追いつかれ反撃及ばず12-15で敗れ、3連勝とはならなかった。



ヒーローインタビューを受ける越川優選手

激戦を繰り広げるも、1点差で敗れる

12月22日(木)から行われた日本ハンドボール選手権大会に、3回戦から出場した。勝ち上がってきた大同大学と対戦し、35-23と快勝した。

続く23日(金)には湧永と同じJHLに所属している大同特殊鋼と対戦した。

試合は、前半終了直前に小賀野龍也選手のシュートが決まり10-10で折り返す。後半は一時勝ち越すも、3連続得点を挙げられ逆転されてしまう。残り1分のところで相手のファールにより湧永が7mスローのチャンスを獲得するも、東江大輝選手が失敗。湧永はラスト10秒での逆転にかけるも、あと一歩及ばず、21-22で敗れた。

この悔しさを胸に、次の大会では活躍を期待したい！

東江選手、一日署長に挑戦！

「110番の日」前日の1月9日(月)、東江大輝選手が安芸高田警察署の一日署長に就任した。東江選手は、湧永の練習拠点が存在する安芸高田市のゆめタウン吉田店にて、正しい110番通報についての啓発のため、ひたくり犯の逮捕を想定した「模擬110番」訓練に参加した。

東江選手は犯人の特徴を110番で署員に伝え、犯人逮捕までの一連の過程を学んだ。当日は約200人の買い物客が訓練を見学し、犯罪への対処法を学んだ。



笑顔を見せる東江選手

各チームの1推し選手を紹介します。

☆選手紹介コーナー☆

ワクナガレオリック
稲毛 隆人 選手



生年月日 1991年11月9日
身長 182cm
血液型 O型
出身地 香川県

↓担当者からのコメント

左利きで、パワフルなプレーが持ち味の選手。今年もパワフルなプレーを武器に、湧永のオフェンス陣を牽引してもらいたい。



ロゴマークの意味

広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。